

安全と健康を推進

OCHIS 「両輪会」をWeb開催

ヘルスケアネットでクオリティを上げワーク(OCHIS)主催の「安全と健康を推進する協議会」(両輪会)が2月24日Web開催され、北海道から沖縄まで全国のトラック・バス・タクシー事業者が講演を視聴した。

冒頭、両輪会代表でOCHIS副理事長の作本貞子氏は、これまでの両輪会の歩みを振り返ったうえで「本日は健康起因事故の根源とも言える血圧とSASにスポットを当て、関連性に着目すること

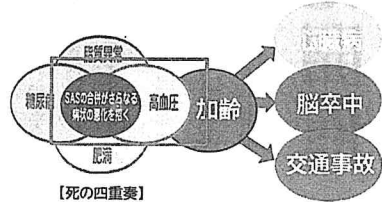
でクオリティを上げられないかという思いでテーマ設定をした」とあいさつ。最初の情報提供として作本副理事長は「血圧とSASの一元化による事故防止について」SAS・血圧の同時測定結果から」と題し、トラックドライバーの高血圧のSASの現状をまとめたデータや、オムロンとの共同研究などを紹介。起床時血圧が顕著に高いSAS陽性者は、脳血管疾患など循環器疾患を起すこと

やすく、健康起因事故のリスクを抱えるハイリスク者と推察されることを解説した。そのうえで、血圧とSASの総合的な対策として運輸ヘルスケアナビシステムを活用を挙げた。

続いてOCHIS所属の保健師である信本ゆかり氏が「早朝時の高血圧の重要性について」をテーマに、同じく保健師の安島なつき氏が「適切な血圧の測定方法について」をテーマにそれぞれ講演した。その後事業者の事例報告が行われ、

「健康起因事故との関連性」

SASを放置すると・・・



れ、両輪会の発起人の1人であり、梅田運輸倉庫(大阪市福島区)相談役の岩崎小夜子氏が「事故原因からの血圧指導までの経緯」と題し講

演。同社の健康への取り組みの経緯や、ドライバーの健康状態を確認する「点呼健康確認カード」の活用、血圧で異常値が出た高血圧有所見者は、乗務させない決まりを定めたことなどを紹介した。

続いて行方連(茨城県行方市)安全衛生推進室長の名雪馨氏が「ドライバーのSAS治療の必要性と困り人が出てくるので、

3年に1回の全員検査をおすすめしたい。今後も皆様とさまざまな形でディスカッションを繰り返しながら、安全と健康を推進できれば」と締めくくった。

(木村麻理奈)